

井の中のカワズ 大海を知らずも

花は松りこみ 月は村す

深い森の中で
目黒から降りて赤の中心に入り込む
静かえるものはた
森の奥と 森のなかを歩

2017年度計画 (MCC) - 04年度

- 01 企画、調査、準備
- 02 企画、調査
- 03 企画、調査
- 04 企画、調査、準備
- 05 企画、調査、準備
- 06 企画、調査、準備
- 07 アートプロジェクト、制作
- 08 企画、調査、準備
- 09 企画、調査、準備
- 10 企画、調査、準備

05年度

- 11 企画、調査
- 12 企画、調査
- 13 企画、調査
- 14 企画、調査
- 15 企画、調査
- 16 企画、調査
- 17 企画、調査
- 18 企画、調査
- 19 企画、調査
- 20 企画、調査

06年度、07年度、08年度

- 21 企画、調査
- 22 企画、調査
- 23 企画、調査
- 24 企画、調査
- 25 企画、調査
- 26 企画、調査
- 27 企画、調査
- 28 企画、調査
- 29 企画、調査
- 30 企画、調査

09年度

- 31 企画、調査
- 32 企画、調査
- 33 企画、調査
- 34 企画、調査
- 35 企画、調査
- 36 企画、調査
- 37 企画、調査
- 38 企画、調査
- 39 企画、調査
- 40 企画、調査

10年度

- 41 企画、調査
- 42 企画、調査
- 43 企画、調査
- 44 企画、調査
- 45 企画、調査
- 46 企画、調査
- 47 企画、調査
- 48 企画、調査
- 49 企画、調査
- 50 企画、調査

11年度、12年度

- 51 企画、調査
- 52 企画、調査
- 53 企画、調査
- 54 企画、調査
- 55 企画、調査
- 56 企画、調査
- 57 企画、調査
- 58 企画、調査
- 59 企画、調査
- 60 企画、調査

13年度

- 61 企画、調査
- 62 企画、調査
- 63 企画、調査
- 64 企画、調査
- 65 企画、調査
- 66 企画、調査
- 67 企画、調査
- 68 企画、調査
- 69 企画、調査
- 70 企画、調査

14年度、15年度

- 71 企画、調査
- 72 企画、調査
- 73 企画、調査
- 74 企画、調査
- 75 企画、調査
- 76 企画、調査
- 77 企画、調査
- 78 企画、調査
- 79 企画、調査
- 80 企画、調査

16年度

- 81 企画、調査
- 82 企画、調査
- 83 企画、調査
- 84 企画、調査
- 85 企画、調査
- 86 企画、調査
- 87 企画、調査
- 88 企画、調査
- 89 企画、調査
- 90 企画、調査



00-10 図書館へのアプローチ。様々なアプローチが併せられ、両側の階高のレベルが上がることで、図書館へ近づいていくような感覚になる。

Site

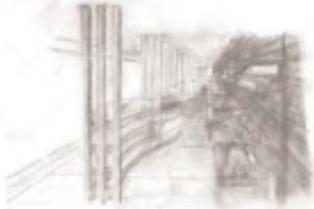
千歳ニュータウン、橋ノ本は區、その中にある橋ノ本池は、かつて千歳ニュータウンの千歳公園だったところ。「緑地」として、緑地保全団体に管理され、大切にされている場所である。

今回は、居住社会の集積地であるニュータウンの中に、自然から導かれる空間をつくる、という目的で、橋ノ本池を取り扱った。

さらに、ニュータウンという都市の中に、歴史性の要素が湧き、という期待がある。大きな池の内に、連続したガラスの空間が広がっている、というアンバランスな要素が、これを顕著な要素とした。



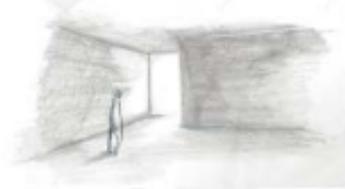
020 歴史関係。橋ノ本池の歴史性から、千歳公園として元の平に建つ、天来の天照から光が差し込む。



050 読書・工学関係。壁のグリッドから、読からの光が射し込む。水鏡によって人々の視線と、読書の空間が導かれる。



060 産物の展示。部屋のすぐ外にある、水に影が写りこんだベンチでは水鏡の影の下で本を読む。



070 読字庫の閲覧。奥へ奥へ掘った奥行きにすることで、読字庫からの光が天まで浸透を得よう。

ある朝 とつぜん、ぼくのまじに 大きな塔が現れた

驚のおしもとで、ぼくは 哲学者と出会う

そのまま 塔の道に誘われていくと

歴史学者が、塔の歴史をおしえてくれた

数学者たちはガラスのへやで、計算をくりひらげ

自然科学者は、筒のもとで、筒の筒に耳をすませる

技術者たちは、かすかに漏れる、筒の光のもとで研究し

産業のキコリは林をあるいて、パトロールをする

芸術家たちは、展覧会を開き

哲学者は、世界へ旅にでる

音楽家は、花たちとワルツを踊って、ぼくは舞臺について

名探偵しくて、探り廻ると

夕日に照らされた塔の影が、池に落ちていた

そうしてまたいつもの、日常に戻る

けれど、朝よりも少し、色付いてみえた





- KEY
- ① GRASS
 - ② TREES, FOLIAGE
 - ③ ROCK
 - ④ PLANT, FOLIAGE
 - ⑤ PLANT, FOLIAGE
 - ⑥ PLANT, FOLIAGE
 - ⑦ PLANT, FOLIAGE
 - ⑧ PLANT, FOLIAGE
 - ⑨ PLANT, FOLIAGE
 - ⑩ PLANT, FOLIAGE

Concept

041 : 新興住宅地の中心の一角、深い森の中
(大規模な都市計画ニュータウン、モノ本化)

用途 : 図書館

かつて日本人は自然の恵みの中で、ふとした出来事について、驚きを感じ、そのは、たがいないことには驚かされ、驚かし、自然の中の静けさと静けさの対比がもたらした驚きがあった。

一方野性では、人々の目はスマートフォンの中の画面の中に向けられ、目はアイコンによって動かされている。

自然の中にも、木々に囲まれた自然環境が自然環境で育った人が人間の社会の中で、一番違和感を感じたことは、自然の中でゆっくりと過ごす機会がなかった。多様な生活を試みられている現代人にとって、自然から切り離された、時間を忘れ、物事に没入することのできる空間はどれほどあるだろうか。そこで、自然から離れた、本の世界に没入する場所である、図書館を設計した。

「新日常」空間である森の中で、静寂や孤独を学ぶことで、「新日常」的な本の中の世界に没入する場所、目の心地を取り戻し、ささいな美しさを再認識する場として、この図書館を提案する。

Extram 1 ... 序

ガラスと、森の中に入り、自然環境に没入する。

まっさらなガラス → 高級のものがないまま取り込む

0

ガラスを削る → 自然環境より、静かな空間を取り込む
ガラスを削る

0

半透明なガラスの壁により、透かしている。人の動きとともに自然環境や景色が変化し、視界はぼやけたままでも自然環境もたないものとなる。

ガラスの壁のデザインについて

4層ガラスの異なるガラスを組み合わせ、パターンをより、ランダムな立派な表現。



組み合わせたガラスによって、自然にも没入しやすくなる。

Extram 2 ... 平面プラン

図書館の設計は、100から100に向けて本を配置。



それぞれの本棚の置く場所は、本のサイズ、本の種類によって決定する。本を揃えているときのように、一定量を積み重ねれば、ページをめくる手は止まらず、視線の動きがつづく。

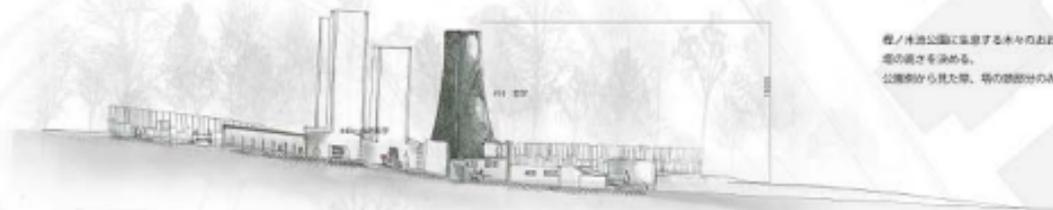


ガラスの透明感によって、自然環境の本棚をより多く、自然、自然に没入して、自然に没入することで、自然を没入して本を探ることができる。本棚の間に置かれた人は、道の中の、自然環境を学ぶ空間の中で、自然。

また、本棚は、本を自然環境の中心にもリンクしており、読者を一掃しているのは、1冊の本を積み重ねたかのような心算になる。



自然環境の中心と道



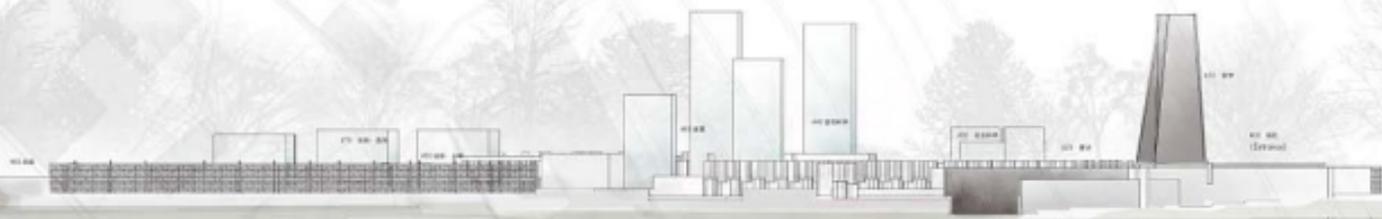
植ノ井池公園に立寄る木々のおおよその高さにもとづいて、
建の高さを決める。
公園側から見た際、塔の傾斜部分のみが見える。

E-E' Section S=1.400



展示室の形は、ペンタプリズムをもとにしている。

A-A' Section S=1.200



South-east elevation